

班	講 評
11	<p>テーマが身近なものであったため、主題を的確に捉えることができている論文は、ほとんどなかったようです。自分の意見を述べやすいものであり、監査論や公認会計士法の知識である程度書けるため、情報収集をせずに書いてしまっているものも見受けられますが、このテーマでは、参考文献のないものもやむを得ないと判断しています。ただし、このテーマで表紙のチェックもれが散見されたのは、残念でした。</p> <p>皆さん、この課題研究の作成を通じて、私たちの仕事そのものや態度立ち振る舞いが、社会から見られていることを十分に自覚したものと思います。学生気分の抜けない者もいるようですが、社会人としての意識に早くチェンジして欲しいです。</p>
12	<p>第 1 回課題研究は、テーマ自体は簡単なものであるため、内容面として合格点に達するのは比較的容易であったかとの印象です。その中で高得点となった補習生は、読み手を意識した論理展開をすべく、文章をブラッシュアップしているため、内容の重複感もなく明瞭簡潔に纏められていたと思います。一方、点数が伸びなかった補習生については、内容面として特定の事柄にフォーカスしてしまうことによるバランス不足、感情論での記載に終始しブラッシュアップ不足であること、形式面として誤字を始めとする不備が多発していること、若しくはその両方が要因として挙げられます。いずれも、自ら文章を読み返し、問い質すことで防止できる点であるため、第 2 回以降はそういった意識を保持して挑んでくれることを望みます。</p> <p>一回目ということで課題提出の心構えのような課題でした。章立てや基本的な論文の書き方について大きな問題となるような課題はみとめられませんでした。内容面では、論文の盗用や剽窃はあってはならない事であることは職業的専門家として当たり前ですが、どのようなデメリットがあるか具体的なイメージ・説明ができていないことがまず重要です。また、「専門家としてあってはならない」等理想的なことばかりでなく、理想と現実の乖離を踏まえて具体的な解決策について考えを記載してもらいたい課題でした。これからクライアントと接するようになると、理論的なものだけでは解決しない問題に直面することが出てくると思います。どのように現実的に解決していくべきかいつも考え取り組んでいくことが重要であると思いました。</p>
13	<p>課題研究の内容面の採点として、以下の 2 点が記載されているか考慮して採点しています。</p> <p>①不正行為の分析をした上で不正行為をすることに対する自身の考えが記載されているか</p> <p>②補習生が不正行為を行うことへの社会的影響が公認会計士の社会的役割との関連性から記載されているか</p> <p>全体的に②の関しては論述はされていましたが、①に関しては不正行為の分析に関する論述が不足していました。著作権法上の取扱いといった法的観点で論述している課題研究もありましたが、その点は自明であることから採点上は考慮しませんでした。形式面での採点として、改行の不備(章のタイトルが最終行に記載)やページ数を手書きで記載しているものは減点しています。</p> <p>実務補習生にとっては身近なテーマであったためか、第 1 回目の課題研究としては比較的よく纏っていた。ただ、身近なテーマであっただけに議論の展開が難しく、全体として平均的な内容に留まっていたように見受けられる。</p> <p>全体として、書きやすいテーマであったのではないかと思います。テーマに沿った展開については、ほぼできている印象です。中でも単に不正はいけないことだということではなく、発生する原因や動機などにフォーカスして論を展開、解決策について言及しているものもあり好印象でした。ただ、減点というほどにはないにせよ、基準の文言の引用で字数を稼いでいると見受けられる、誤字脱字が多いなどの課題研究も一部見られたことは残念なポイントです。他人に提出する成果物であるということにより強く認識する必要があると感じました。また、形式面での減点が複数あったことも挙げておきます。形式的なルールが守れないということは、監査で言えば、残高確認状の差異調整を実施していないというような明確な監査の失敗と同義であると言え、財務諸表利用者や当局へ対抗できないようなミスの原因ともなり得ます。このような減点はぜひ避けるようにしていただきたいと思います。</p>

14	<p>初回という事もあり、全体的に形式面での不備が目立った。特に参考文献と出典の違い、およびその記載ルールについて再度注意事項をご確認頂きたい。内容が良いにもかかわらず形式面での減点が入ってしまう勿体ないものもあった。</p> <p>第 1 回目の課題研究お疲れ様でした。全体としてはよく書けていたと思いますが、採点をしていて気になった点を記載いたします。まず形式面について、参考文献がない場合でもない旨の記載が必要です。また、一部の方は章立てがなされていませんでした。これらは形式面での減点対象になるので次回以降気を付けてください。なお、文章の言葉遣いについても一部話し言葉が混ざっている方が見受けられましたので気を付けるようにしてください。</p> <p>一方、内容面については、章と章の間のバランスが悪かったり、章の中の段落間のバランスが悪かったりという方が見受けられました。これは、問いに対する回答の論理性が弱い可能性を示しています。今回の問題であれば、問いは①課題研究における不正行為についての意見と②それによる社会的影響の2つであり、大きくこの2つに回答する必要があります。そのうえで、その回答(=主張)に対して、それぞれ根拠を述べる必要があります。ロジカルシンキングにおけるピラミッドストラクチャーと呼ばれる構造ですので、ご存じない方は調べてみてください。</p> <p>なお、今後のご参考までに、50 点台以下と 70 点台以上の方の特徴等を記載しておきます。</p> <p>50 点台以下の方は、上記に記載した2つの問いに論理的に答えられていませんでした。まずは問いを把握し、文章を書き始める前にどういう構造にするか考えるようにしてください。70 点台以上の方は、論理的な回答に加えて、問いに対する考察(例えば、なぜ無断引用が不適切な行為なのか、補習生の会計士業界での位置づけ、会計士にとっての倫理の重要性等)がしっかりとなされていました。また、そのような考察を実施していることから、章立ては(1)問題の考察、(2)問いへの回答①、(3)問いへの回答②、及び(4)まとめの4章での形式が多かったように思われます。</p>
15	<p>第1回目の課題研究、またテーマが記事に対する考察ということで、専門的分野に関する研究ではないことからそれほど差が出なかった印象です。</p> <p>文字数の範囲内ではありますが、こういった課題に対しては公認会計士内部の問題、公認会計士制度に与える影響、外部からの公認会計士への期待など角度を変えて論じることで説得力が増しますし、文字数に余裕があった方は自身の論述として十分であったかどうか改めて確認して頂きたいところです。</p> <p>各々が公認会計士の社会的責任に当てはめながら当該記事を考察していた点は良かったと思います。本テーマは一部の補習内容に関することではありますが、ご自身の業務含めまして公認会計士の一員として外部からどのような期待を背負っているかを意識している点は重要かと考えます。</p> <p>形式的には問題ない論文が多かったです。いずれも自分で考えたことを言葉にしていることが窺え、それなりに時間をかけて作成したのではないかと思います。今後も第一回の論文で向き合った公認会計士としての使命や社会からの期待について、忘れずに成長してほしいです。</p> <p>公認会計士試験合格者の行動が公認会計士制度の社会的な信頼性に結びつくことは全員が認識できたと思います。論点を展開するにあたっては、意見を述べるだけでなく、根拠を明確にすることとその根拠を裏付けるための情報収集を怠らないようにしてください。</p>
61	<p>今回のテーマを今後も忘れず、不正を絶対に行わないようにしてください。文字数が制限されているなかでうまくまとめることは監査調書でも同じです。短い文章でも自身の主張をまとめられるように、実務補習や実務を通じて能力を磨いてください。</p>